

4 . 学生の受け入れ

【概要】

本会計大学院では、学生の受け入れ方針を「LEC 会計大学院が受け入れる学生は、会計実務専門家としての高度な実務専門能力を身につけ、将来、国内外を問わず活躍できる人物です。また資本主義社会の発展を通してより豊かな経済社会の創造に貢献できる次世代のリーダーとして社会の第一線で活躍したいと願う、意欲的かつ向上心にあふれ新しい時代のパラダイムにチャレンジできる発想豊かな人物です（本会計大学院アドミッションポリシーより）」と定め、広く社会に公表し、定期的に入試説明会を実施するなど学生募集活動を展開している。

この学生受け入れ方針に則り、入学者選抜方法としては、一般入学試験、A0 入学試験、企業等推薦入学試験の 3 つの方法を採用し、本会計大学院の専任教員の中から研究科委員会が委嘱した入試委員会の掌握の下、適切かつ公正な入学者選抜試験を実施している。

本会計大学院は、本年度（2008 年 10 月 1 日現在）入学定員および収容定員を充足するには至っていないが、実入学者数は、ピア・エデュケーションの観点からは、決して少なすぎる人数ではないと考えている。今後も引き続き、学生同士のピア・エデュケーションがより実効化するよう、研究科委員会および学校経営委員会を通じて学生募集活動の改善を図るとともに、学生の受け入れ方についても、入試委員会および研究科委員会を通じて継続的に検証していく所存である。

項目	評価の視点	レベル	
4-1	専門職学位課程制度の目的に合致し、かつ、当該経営系専門職大学院の使命・目的および教育目標に即した学生の受け入れ方針、選抜方法および選抜手続が設定され、それが事前に入学志願者をはじめ広く社会に公表されているか。		

<現状の説明>

本会計大学院においては、以下の通り、専門職学位課程制度の目的に合致し、かつ、本会計大学院の使命・目的および教育目標に即した学生の受け入れ方針、選抜方法および選抜手続を設定し、事前に入学志願者をはじめ広く社会に公表している。

本会計大学院では、専門職学位課程制度の目的ならびに本会計大学院の使命・目的および教育目標を鑑み、公認会計士、税理士、米国公認会計士その他資格合格者、ならびに企業・団体等において会計実務に携わる社会人を主たる学生像として想定し、学生の受け入れ方針を次のように定めている。

.....
 (再掲) 本会計大学院アドミッションポリシー

「LEC 会計大学院が受け入れる学生は、会計実務専門家としての高度な実務専門能力を身につけ、将来、国内外を問わず活躍できる人物です。また資本主義社会の発展を通してより豊かな経済社会の創造に貢献できる次世代のリーダーとして社会の第一線で活躍したいと願う、意欲的でかつ向上心にあふれ新しい時代のパラダイムにチャレンジできる発想豊かな人物です。」

この学生の受け入れ方針に則り、入試委員会での検討と研究科委員会での審議を経て選抜方法や選抜手続を設定し、学生募集要項を策定している。特に選抜方法として主たる学生像を獲得することを目的とした A0 入学試験および企業等推薦入学試験を採用している。

学生の受け入れ方針は、本会計大学院パンフレットおよびホームページ、学生募集要項に明記し、入学志願者をはじめ広く社会に公表している。また、選抜方法や選抜手続などは学生募集要項に明記して本会計大学院のホームページ上公開しており、入学志願者のみならず広く社会一般に公表している。

< 根拠資料 >

- ・ 資料 1 - 3 : LEC 会計大学院パンフレット
- ・ 資料 4 - 1 : 2008 年度 (秋入学) LEC 会計大学院 学生募集要項
- ・ 資料 4 - 2 : 2009 年度 LEC 会計大学院 学生募集要項
- ・ 資料 4 - 3 : 2009 年度 LEC 会計大学院 A0 特別入学試験・企業等推薦特別入学試験
学生募集要項
- ・ 資料 4 - 5 : LEC 東京リーガルマインド大学大学院入試委員会規程
- ・ LEC 会計大学院ホームページ「入学案内」

<http://www.lec.ac.jp/graduate-school/accounting/admission/>

項目	評価の視点	レベル	
4-2	入学選抜にあたっては、受け入れ方針・選抜基準・選抜方法に適った学生を的確かつ客観的な評価によって受け入れているか。		

< 現状の説明 >

本会計大学院においては、入学選抜にあたっては、受け入れ方針・選抜基準・選抜方法に適った学生を的確かつ客観的な評価によって受け入れている。具体的には以下の通りである。

本会計大学院は、学生の受け入れ方針に則り、一般入学試験、A0 入学試験、企業等推薦入学試験の 3 つの入学者選抜方法を採用している。

一般入学試験

書類審査、筆記試験（短答式試験及び論述式試験）ならびに面接試験の内容を総合的に勘案して合否を審査する。

A0 入学試験

一般入学試験の出願資格に加えて、社会人であること、有資格者であること、成績優秀者であることなどの一定の出願要件を設定した上で、書類審査と面接試験の内容を総合的に勘案して合否を審査する。

企業等推薦入学試験

企業等推薦入学試験は、一般入学試験の出願資格に加えて、企業等推薦書の提出を要件とした上で、書類審査と面接試験の内容を総合的に勘案して合否を審査する。

なお、面接試験では、複数の専任教員（3名）を面接官として配置すること、評価項目および評価基準があらかじめ明示された「面接評価シート」を用いて面接官が入学志願者を評価すること、各面接官の評価の平均値をもって当該入学志願者の面接試験の評価とすることにより、評価の的確性と客観性を担保している。

また、合否判定は、氏名、出身大学、出身地、勤務先を伏せたデータを作成し、匿名性を確保した形で合否判定基準に則り、研究科委員会にて審議している。

< 根拠資料 >

- ・資料 4 - 1：2008 年度（秋入学） LEC 会計大学院 学生募集要項
- ・資料 4 - 2：2009 年度 LEC 会計大学院 学生募集要項
- ・資料 4 - 3：2009 年度 LEC 会計大学院 A0 特別入学試験・企業等推薦特別入学試験 学生募集要項

項目	評価の視点	レベル	
4-3	学生募集方法および入学者選抜方法は、当該経営系専門職大学院の入学資格を有するすべての志願者に対して、入学者選抜を受ける公正な機会を等しく確保したものとなっているか。		

< 現状の説明 >

本会計大学院においては、学生募集および入学者選抜方法は、本会計大学院の入学資格を有する全ての志願者に対して、入学選抜を受ける公正な機会を等しく確保している。

具体的には以下の通りである。

本会計大学院は、4-2 に既述の通り、学生の受け入れ方針に則り、一般入学試験、A0 入学試験、企業等推薦入学試験の 3 つの入学者選抜方法を採用しており、それぞれの選抜方法における 出願資格、出願書類、出願方法、出願期間、選考日、選考内容等を詳細に記載した学生募集要項を本会計大学院ホームページ上で公開している。

また、それぞれの入学者選抜方法における入学試験を複数回ずつ行うことにより、入学資格を有する志願者が出願しやすいように配慮した学生募集を行っている。

なお、それぞれの入学者選抜方法において入学者枠は設けておらず、かつ本学総合キャリア学部出身者を入学者選抜上優遇する制度は目下のところ採用してはいない。

よって、本会計大学院では、入学資格を有する全ての志願者に対して、入学者選抜を受ける公正な機会を等しく確保している。

<根拠資料>

- ・資料1 - 3 : LEC 会計大学院パンフレット
- ・資料4 - 1 : 2008 年度 (秋入学) LEC 会計大学院 学生募集要項
- ・資料4 - 2 : 2009 年度 LEC 会計大学院 学生募集要項
- ・資料4 - 3 : 2009 年度 LEC 会計大学院 AO 特別入学試験・企業等推薦特別入学試験
学生募集要項
- ・LEC 会計大学院ホームページ「入学案内 / 入試情報」

<http://www.lec.ac.jp/graduate-school/accounting/admission/ad-general09.html>

項目	評価の視点	レベル	
4-4	入学希望者に対して、説明会や開放講座等を実施しているか。		

<現状の説明>

本会計大学院においては、入学希望者に対して、以下の通り、説明会や開放講座等を実施している。

本会計大学院では、学生募集要項をホームページ上で公開すると共に、6月以降ほぼ月1回のペースで入試説明会を実施している。

入試説明会では、本会計大学院の教育理念と特長、カリキュラムや教員の紹介、学修環境やフォロー制度、入学試験案内などについて、専任教員と事務職員が分担して説明し、参加者の個別相談の時間も設けている。

参加者には、本会計大学院のパンフレット、シラバス、時間割、学生募集要項の他、本会計大学院紀要も配布し本会計大学院の研究成果を紹介している。

また、専任教員による模擬授業なども適宜企画し、入試説明会と併せて実施している。なお、入試説明会は、本会計大学院が主たる学生像とする社会人層も参加できるように、平日の夜間または土曜日のいずれかで実施している。

<根拠資料>

- ・LEC 会計大学院ホームページ「イベント情報」

項目	評価の視点	レベル	
4-5	入学者受け入れ方針に沿った学生の受け入れ方法が採用され、実際の入学者選抜が、責任ある実施体制の下で、適切かつ公正に実施されているか。		

<現状の説明>

本会計大学院においては、以下の通り、入学者受け入れ方針に沿った学生の受け入れ方法が採用され、実際の入学者選抜が、責任ある実施体制の下で、適切かつ公正に実施されている。

本会計大学院の専任教員の中から研究科委員会が委嘱した入試委員会の掌握の下、入学者受け入れ方針に則り、研究科委員会の決定に基づき、適切かつ公正な入学者選抜試験を実施している。

入試委員会は、入学者選抜試験の実施計画に関する事、合否判定基準に関する事、試験問題に関する事、採点に関する事、合否判定資料の作成に関する事、学生募集要項作成に関する事、入学者選抜試験の運営に関する事、を検討し、研究科委員会の決定に基づき実施する。入学者選抜試験の実施にあたっては、筆記試験の問題の制作と採点については入試委員会が「入学試験問題制作マニュアル」に則って担当し、面接試験は入試委員を除く本会計大学院の専任教員が「面接試験マニュアル」に則って担当し、入試運営事務は、事務局入試課の担当職員が「入学試験運営マニュアル」に則って担当し、合否判定は研究科委員会にて審議している。

<根拠資料>

- ・資料 4 - 1 : 2008 年度 (秋入学) LEC 会計大学院 学生募集要項
- ・資料 4 - 2 : 2009 年度 LEC 会計大学院 学生募集要項
- ・資料 4 - 3 : 2009 年度 LEC 会計大学院 A0 特別入学試験・企業等推薦特別入学試験 学生募集要項
- ・資料 4 - 5 : LEC 東京リーガルマインド大学大学院入試委員会規程

項目	評価の視点	レベル	
4-6	複数の入学者選抜方法を採用している場合、各々の選抜方法の位置づけおよび関係は適切であるか。		

<現状の説明>

本会計大学院においては、複数の入学者選抜方法を採用しており、各々の選抜方法の関

係を適切に位置づけている。具体的には、以下の通りである。

本会計大学院では4-2に既述の通り、一般入学試験、A0入学試験、企業等推薦入学試験の3つの入学者選抜方法を採用している。

一般入学試験

書類審査、筆記試験（短答式試験及び論述式試験）並びに面接試験の内容を総合的に勘案して合否を審査する。法令に定められた大学院入学資格を有するものであれば誰でも出願可能な入学者選抜方法であるため、会計分野において高度な学修を継続していくことが出来る資質、すなわち本会計大学院における履修の前提として要求される基礎的学力の程度を審査するための筆記試験を課している。

A0入学試験

一般入学試験の出願資格に加えて、社会人であること、有資格者であること、成績優秀者であることなどの一定の出願要件を設定した上で、書類審査と面接試験の内容を総合的に勘案して合否を審査する。

企業等推薦入学試験

一般入学試験の出願資格に加えて、企業等推薦書の提出を要件とした上で、書類審査と面接試験の内容を総合的に勘案して合否を審査する。

筆記試験では、会計分野において高度な学修を継続していくことが出来る資質、すなわち本会計大学院における履修の前提として要求される基礎的学力の程度を審査する。面接試験では、入学志願者の学修意欲・向上心、発想力、表現力およびコミュニケーション能力の程度を審査する。なお、面接試験は、学生の受け入れ方針に謳う「意欲的かつ向上心に溢れ、新しいパラダイムにチャレンジできる発想豊かな人物」を審査するため全ての選抜方法において実施している。

一般入学試験は、法令に定められた大学院入学資格以外に出願の要件を定めないので最も範囲が広い入学者選抜方法であり、本会計大学院では主として大学卒業見込みの者を想定した入学者選抜方法である。一方、A0入学試験および企業等推薦入学試験は、本会計大学院が主たる学生像として想定する有資格者や社会人の出願を誘引するための入学者選抜方法であり、そのうち特に、企業等推薦入試は、企業からの推薦によって出願する学生を想定した入学者選抜方法である。

<根拠資料>

- ・資料4-1：2008年度（秋入学） LEC 会計大学院 学生募集要項
- ・資料4-2：2009年度 LEC 会計大学院 学生募集要項
- ・資料4-3：2009年度 LEC 会計大学院 A0 特別入学試験・企業等推薦特別入学試験 学生募集要項

項目	評価の視点	レベル	
4-7	身体に障がいのある者が入学試験を受験するための仕組みや体制等が整備されているか。		

<現状の説明>

本会計大学院においては、身体に障がいのある者が入学試験を受験するための仕組みや体制等の状況は現状、以下の通りとなっている。

本会計大学院では、視覚・聴覚に障がいを持つ者の受験に関しては、該当する受験者が今までなかったこともあり、必ずしも体制が整備されているとはいえない状況にある。

これに対し、下肢に障がいを持つ者の受験については、入学試験会場としても使用される本会計大学院の授業棟にはエレベーターが完備されているため、十分に可能である。

今後は社会からの要請および幅広い学生の受け入れといった観点から前向きに検討を行っていく。

項目	評価の視点	レベル	
4-8	経営系専門職大学院の教育にふさわしい環境を継続的に確保するために、入学定員に対する入学者数および学生収容定員に対する在籍学生数は適正に管理されているか。		

<現状の説明>

本会計大学院においては、経営系専門職大学院の教育にふさわしい環境を継続的に確保するために、入学定員に対する入学者数および学生収容定員に対する在籍学生数については以下の通り管理している。

本会計大学院の入学定員は60名、収容定員は120名である。これに対し、開学初年度となる2005年度の実入学者数は22名、2006年度の実入学者数は37名、2007年度の実入学者数は25名、2008年度の実入学者数は19名、入学定員の平均充足率は43%であり、現在の在籍学生数は50名(2008年10月1日現在)である。入学定員および収容定員を充足するには至っていないが、実入学者数は、ピア・エデュケーションの観点からは、決して少なすぎる人数ではないと考えている。

今後も引き続き、学生同士のピア・エデュケーションがより実効化するよう、入学者数の適正な管理に努めていく。

項目	評価の視点	レベル	
4-9	実入学者数が、入学定員を大幅に超える、または大幅に下回る状況になっている場合、これを改善するための取組みが行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。		

<現状の説明>

本会計大学院においては、入学定員と実入学者数との関係の適正化を図るために、以下の改善や取組みを行っている。

4-8に既述の通り、本会計大学院の入学定員は現在60名である。これに対し、開学初年度となる2005年度の実入学者数は22名、2006年度の実入学者数は37名、2007年度の実入学者数は25名、2008年度の実入学者数は19名、入学定員の平均充足率は43%であり、現在の在籍学生数は50名（2008年10月1日現在）である。

実入学者数は、ピア・エデュケーションの観点からは決して少なすぎる人数ではないと考えているが、入学定員を充足するには至っていない状況を鑑み、研究科委員会ならびに学校経営委員会を通じて継続的に学生募集活動の改善を検討し、入学定員と実入学者数との関係の適正化に努めている。

2008年度においては、本会計大学院が主たる学生像とする企業・団体等の会計実務に携わる社会人に対して、産学連携活動を通じて、認知度を高めていく取組みを開始している。

また、昨今の経済情勢と雇用情勢を考慮した緊急支援的な学費減免制度（2009年度入学者を対象）の導入を講じている。

項目	評価の視点	レベル	
4-10	学生の受け入れ方針・選抜基準・選抜方法等の学生受け入れのあり方について、継続的に検証する組織体制・仕組みが確立されているか。		

<現状の説明>

本会計大学院においては、学生の受け入れ方針・選抜基準・選抜方法等の学生受け入れのあり方について、以下の通り、継続的に検証する組織体制・仕組みを確立している。

学生の受け入れのあり方については、入試委員会および研究科委員会にて継続的に検証している。なお、2008年度においては、研究科委員会の審議をふまえ、新たに学生募集を強化していくための委員会を設置した。また、4-9に既述した学費減免制度（2009年度入学者を対象）の導入を受け、A0特別入学試験および企業等推薦特別入学試験を実施している。

<根拠資料>

- ・資料4-3：2009年度LEC会計大学院 A0特別入学試験・企業等推薦特別入学試験

学生募集要項

- ・ LEC 会計大学院ホームページ「入学案内 / 入試情報」

<http://www.lec.ac.jp/graduate-school/accounting/admission/ad-general09.html>

【点検・評価】

(1) 学生受け入れの公開性・公平性について

以下の点から公開性・公平性を確保した入学者選抜を行っているとは評価できる。(視点4-1・3・4)

本会計大学院では、学生受け入れ方針(アドミッションポリシー)を本会計大学院パンフレットおよびホームページ上で公開しており、選抜方法や選抜手続を明記した学生募集要項もホームページ上で公開している。入学者選抜方法においても、一般入学試験、A0 入学試験、企業等推薦入学試験を採用し、それぞれの入学者選抜方法における入学試験を複数回ずつ行うことにより、入学資格を有する志願者が出願しやすいように配慮した学生募集を行っている。また、入試説明会を6月以降月1回のペースで開催しており、開催時間帯は、特に本会計大学院が主たる学生像とするところの社会人層が参加できるように平日の夜間または土曜日に実施している。特に、A0 入学試験は、書類審査と面接試験の内容を総合的に勘案して合否を審査する選抜方法であり、多様な知識・経験を有する者を入学させるよう配慮しており、本会計大学院が主たる学生像とするところの社会人層の獲得を目的としたものとなっている。

(2) 入学者選抜の実施体制について(客観性と公正性)

以下の点から入学者選抜の実施体制およびその客観性と公正性の強化に努めているとは評価できる。(視点4-2・5)

実際の入学者選抜にあたっては、研究科委員会が委嘱した入試委員会の掌握のもと、入学者受け入れ方針に則り、研究科委員会の決定に基づき実施している。

具体的には、筆記試験の問題の制作と採点は「入試問題作成マニュアル」に則って入試委員会が担当し、面接試験については、入試委員を除く本会計大学院の専任教員が「面接試験マニュアル」に則って担当し、入試事務運営については、事務局入試課の担当職員が「入学試験運営マニュアル」に則って担当し、合否判定においては、氏名、出身大学、出身地、勤務地を伏せたデータを作成し、匿名性を確保したかたちで、合否判定基準に則り、研究科委員会にて審議している。このように入試問題制作と採点、面接試験、入試運営、合否判定の権限分化とマニュアルに基づく運営を心掛けているといえる。

(3) 入学定員と実入学者数の適性化について

本会計大学院の入学定員の平均充足率は43%となっている。実入学者数はピア・エデュケーションの観点からは決して少なすぎる人数ではないと考えているが、入学定員を充足するに至っていない状況を鑑み、研究科委員会ならびに学校経営委員会を通じて、継続的に学生募集活動の改善を検討し、入学定員と実入学者数との関係の適正化に努めていくことが課題である。(視点4-8・9・10)

【今後の方策】

(1) 学生受け入れの公開性・公平性について

学生受け入れの公開性・公平性は、常に求められるものであるため、今後も引き続き適切な情報の公開および公平性を保つための努力を行っていく。

また、身体に障がいのある者に対する受け入れについても、社会からの要請および幅広い学生の受け入れといった観点から前向きに検討を行っていく。

(2) 入学者選抜の実施体制について（客観性と公正性）

入学者選抜の実施体制およびその客観性と公正性は、常に求められるものであるため、今後も引き続きその強化・厳格性の確保に努めていく。

(3) 入学定員と実入学者数の適性化について

昨今の経済情勢・雇用情勢を考えると、本会計大学院が主たる学生像とする層にとっても、相当程度の学費を納入し、時間をかけて学修する機会を得るゆとりが少なくなってきたのではないかと危惧している。

そこで、本年度において実施する学費減免制度などの学修支援策を継続して検討していくとともに、本年度から取り組み始めた産学連携活動や、科目等履修生制度や聴講生制度などを通じて、本会計大学院の教育内容を広く知ってもらう機会を増やしていく施策を講じていく必要があると考えており、その具体的な取組みとして、まず研究科委員会の審議をふまえ、新たに学生募集を強化していくための委員会を設置している。

もっとも、本会計大学院のみならず、会計専門職大学院全体においても入学定員を充足していない大学院が相当程度存在するので、今後は会計大学院協会を通じて、会計専門職大学院全体の認知度を向上させる施策を講じていく必要があるとも考えている。